

ぼくのおとうと

本多 叶夢

らいちゃんはようちえんに通う5さいのぼくの弟だ。たべることが大好きで、すぐに「おなかがすいたー。何かたべたいよー。」とグズグズさわぎだす、くいしんぼう。

一人あそびが好きで、家ではおとなしくきょうりゆうのおもちやでたたかいごっこをしたり、ぬりえを上手にぬっている。

そんならいちゃんをぼくは、かまいたくてしかたがなく、ちよつかいをだすとらいちゃんはいやがってないてしまう。そしてぼくはまいにちのようにお母さんにしかられて、らいちゃんをにらみつける。

「おにいちゃんなのにどうしてやさしくしてあげないの。もつと弟を大切にしておきなさい。」

とお母さんに言われるけど、ぼくはおにいちゃんになりたくてなったわけじゃないし、弟がほしかったわけじゃない。一人っ子だったらお母さんもお父さんもぼくにだけやさしくしてくれるし、おもちゃもゲームもぜんぶ一人じめできるのに、とぼくはいつも思う。

らいちゃんに好きな人をきくと、

「ままが1位でばばが2位でばあばが3位で。」

聞いていると、どんだんいろんな人の名前がでてきて、ぼくはあせりだす。7位くらいになってようやくぼくの名前がでてくると、お母さんとお父さんはわらっている。けどぼくはわらえない。

「どうしてぼくはいつも7位なの。」
と聞くと、

「だっていつもいじわるするからだよ。」

といわれる。くやしいけど、そのとおりだとおもう。ぼくは、じゅん位を上げてもらうのにひっしらいちゃんのいきげんとりをはじめ。おもちゃをかしてあげたり、ほめてあげるといつきにぼくのじゅん位は2位になる。らいちゃんはとってもたんじゅんだ。だけどそこがかわいいところでもある。

らいちゃんにとってのぼくは、7位からたまに2位になって、また7位にもどるお兄ちゃんのような。ぼくは、その順位よりらいちゃんは上だけど、はずかしいからないしよにしておく。こんなきょうだいのかんけいが、ぼくたちにはちょうどいいと思う。